県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.113
2023年
2.3月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000(代表)　ＴＥＬ：079-497-7011(地域医療連携部直通)　ＦＡＸ：079-438-3756(地域医療連携部直通)

もくじ

- 地域連携動向 …… 1
- 放射線科 …… 2
- サポーティブケア外来(緩和ケアチーム) …… 3
- リハビリテーション科 …… 4
- 薬剤部 …… 5
- 進化する褥瘡対策 …… 6
- 専門看護師 / 認定看護師 …… 7
- 外来診療表 …… 8

地域医療支援病院兼兵庫県指定新型コロナ拠点病院としての３年間につきまして

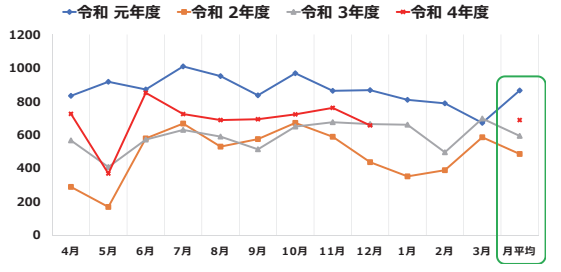
地域医療連携部長 兼 診療部皮膚科部長　**足立厚子**

当院は兵庫県の中で、生活習慣病医療、３次救急医療、緩和医療、神経難病、感染症医療の拠点という５つの政策医療＋従来の高度専門医療を担う使命を持った病院です。2020 年３月のコロナ禍以降、2020 年４月に兵庫県より新型コロナウイルス拠点病院に指定されました。

この３年間、新型コロナ患者用の病床数確保および、新型コロナ患者を担当する看護師などの人員確保のため、ICU、HCU、一般病床、緩和病床を一時期縮小せざるを得ない状態となり、地域の医療機関には、ご迷惑をおかけしました。しかしその中で、可能な限りの救急医療、一般診療、高度専門医療を提供し続けるべく努力をして参りました。図１に初診患者数の推移を示します。コロナ禍以前の令和元年の８割程度ではありますが、令和４年度は徐々にコロナ禍以前に近づきつつあります。表１は救急患者数と、疾病別、搬送経路別の推移を示します。コロナ禍以前の令和元年に比べ、87％程度まで受け入れが回復してきているのが分かります。図２は地域医療連携部が関与した、2022 年４月から 12 月の転院・在宅調整件数を示します。全体では、回復期リハビリ病棟、在宅、一般病棟、介護施設等の順であったのに対し、コロナ患者の転帰別退院調整では、介護施設等が最も多く、次いで一般病棟、回復期リハビリ病棟、医療療養病棟の順で、在宅は６％でした。コロナ患者の特徴として介護施設入所中にコロナに罹患し、隔離解除後、もとの施設に戻られる症例や、コロナ以外の医療が必要で一般病院に戻られる症例が多いことが挙げられます。一方、一般県民の皆様には、加古川市民会館において感染対策に注意しながら、年１回、県かこ県民フォーラムを開催し、2022 年 12 月には「今日から始める予防医学と新しい治療～いつまでも元気に暮らすために～」と題して講演会をさせていただきました。

今後も気を引き締めて、新型コロナ感染症診療のみならず、一般診療、高度専門医療にも、地域の皆様とともに取り組んで参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

図1．初診患者数の推移



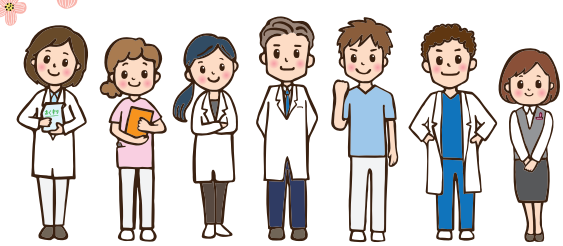
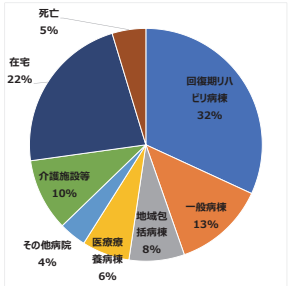


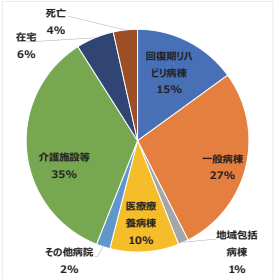
表１．救急患者疾病別、搬送経路別推移

	患者数	疾病別			搬送別経路		
		交通事故	疾病	その他	救急車	ドクヘリ	その他
令和元年度	7495	424	6846	225	2595	449	4451
令和２年度	4337	100	4137	100	946	355	3036
令和３年度	5215	163	4917	135	1620	360	3235
令和４年4～12月	4903	271	4502	130	1993	306	2604
令和4年度見込み	6537	361	6003	173	2657	408	3472

図２：転院･在宅調整件数
2022年4月から12月



コロナ患者の転帰別退院調整
2022年4月から12月



放射線科

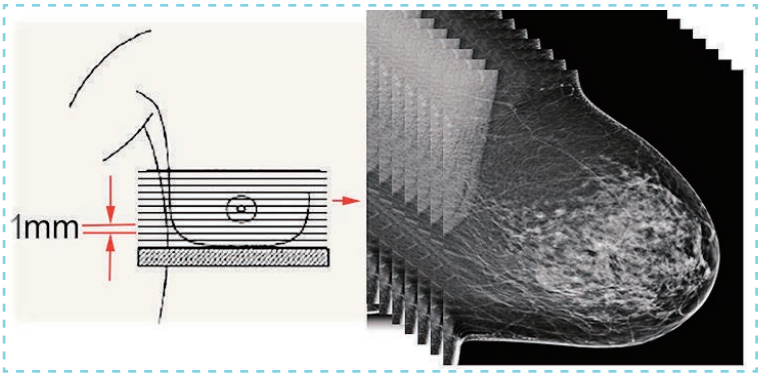
3D マンモグラフィ撮影装置のご案内

副院長兼放射線科部長　**酒井英朗**

当センターでは、2022 年からホロジック社の 3D マンモグラフィ **3Dimensions™** を導入しております。ホロジックの 3D マンモグラフィ技術は，従来の 2D 単独撮影に比べて 3D 画像を併用することで，浸潤癌の検出率が 20 ～ 65％増加し，偽陽性による要精検率が最大で 40％低下したことが臨床研究により報告されています。

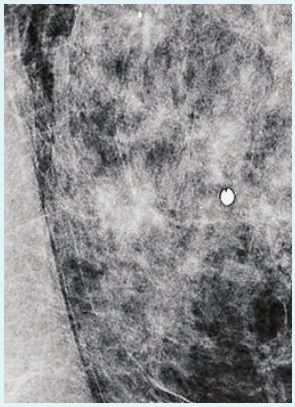
3Dマンモグラフィ撮影装置

アームが回転し、1つの乳房に対し多くの断層画像を作成

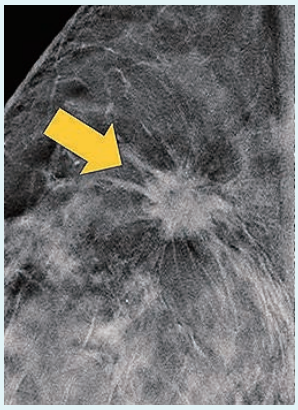


乳房は厚みがある立体ですので、2D の 1 枚の画像では病変周囲の乳腺組織と重なってしまい、「がん」が見えにくくなることを経験します。

3D マンモグラフィでは多くの断層画像を確認することで、隠れた乳がん病変も検出可能となります。



【2D画像】



【3D画像】

2D と 3D では乳がんの見え方がこんなにも違ってきます。

サポーティブケアチーム

緩和ケア内科　田中祐子

疾患によらず「緩和ケア」とは「患者・家族のQOLの維持向上である」と定義すると、「高齢化」を背景に治癒を目指すことが難しい患者さんでも「生活の質」は高めることが出来る点において、緩和ケアが果たす役割は非常に大きいと考えています。

厚生労働省は２０２５年を目途に「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう、地域の包括的支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築」を推進しています。しかし、生産年齢人口の減少により、医療・介護の担い手は不足するとされ、効果的・効率的な専門性を活かした「多職種連携」が重要です。

緩和ケア医療の提供には、特に多職種連携・協働がポイントになるため、２０２０年度からサポーティブケアチームでは持ち回りで『緩和ケアと多職種連携』を学ぶための勉強会を開催、今年度はその中から厳選して院内の職員に向けて勉強会（４回シリーズ）を開催しました。

「患者さんご家族のQOLの維持向上」のために、院内の多職種が専門性を活かして互いに連携しながら医療・ケアを提供していくことをより推進するため、勉強会では各メンバーが専門性を活かして実践する具体例を挙げ、「連携する視点」を強化した内容にしています。

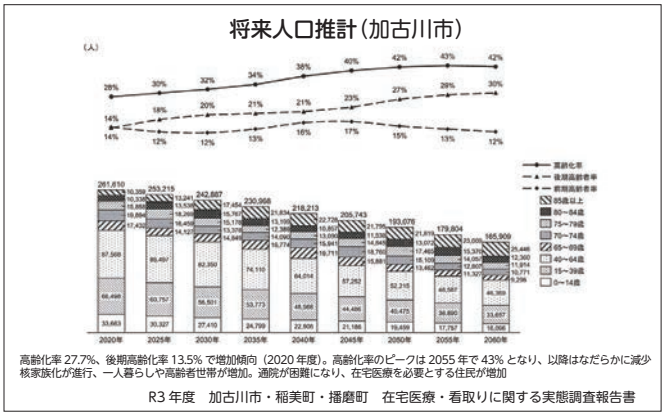
■【チームメンバー】

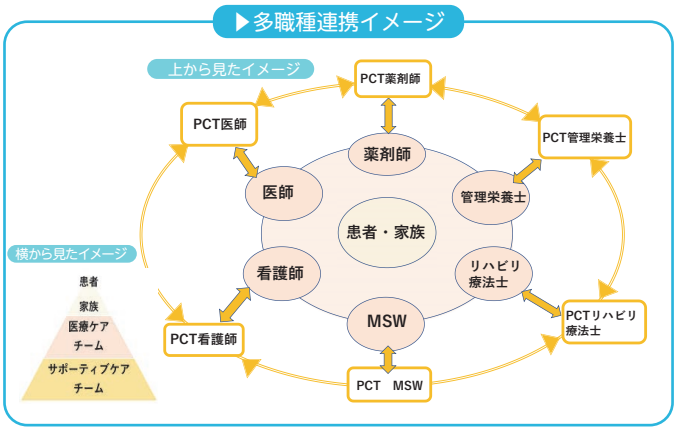
身体症状担当医（緩和医療専門医）	1名
看護師（緩和ケア認定看護師）	1名
薬剤師	3名
リハビリ療法士（PT、OT、ST各1名）	3名
管理栄養士	2名
社会福祉士	1名
精神症状担当医（非常勤）	1名

ポイントは
①知識を共有（実践に即した）する
②他職種の専門性や業務を理解する
③多職種での協力・連携を考える機会にする　です。

それぞれの職員が「緩和ケアの視点を持って」専門性を活かして主体的に行動し、多職種連携をすることにより、より多くの患者さんに緩和ケア（QOLの維持向上）をお届け出来るようにしたい、そんな想いが私たちにはあります。

２０２２年９月から加古川中央市民病院、高砂市民病院、当院の３病院の緩和ケアに携わるメンバー（緩和ケアチーム、緩和ケア病棟など）で月に１回オンライン会議を始めました。病院内だけでなくこの地域全体の緩和ケア・終末期医療について話し合い、住民の方が望む場で少しでも長く過ごすことのできる地域にしていくために、専門職の役割を考え病院間でも連携しながら活動していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





リハビリテーション科

リハビリテーション部長　**柳田博美**

ホワッツ AGE？

■ AGE (Advanced Glycation End-products)

体内の様々なタンパク質に過剰な糖質がこびり付き変性（糖化）した『タンパク質のなれの果て』が AGE です。AGE は標的の機能低下を通じて皮膚や血管等を含め老化や様々な疾患の発症原因となります。最も身近な AGE は「ヘモグロビン A1c」で血糖コントロールの指標とされています。

■ 柳田のもくろみ

子どもの診療で最近特に感じるのは「食生活の乱れ」です。毎月 4-5 例の腰椎分離症のご紹介をいただく中、疲労骨折を起こすような症例ではすでに糖化が進行、AGE による骨質の劣化から疲労骨折に至る可能性を考え、子ども達の「AGE 測定」を数年来考えておりました。

■ 大誤算

昨年 AGE 測定器のデモを行いました。院内で最も糖質を制限している？私は自信を持って検査に臨んだのですが…業者から告げられた結果は「80 代ですね」（場内爆笑）に続き「日サロとか？」…最近の測定器は皮膚で測定するので、一旦日焼けで受けた真皮部分のダメージは「半ば一生物」とのこと。真皮のターンオーバーは 5-6 年（加齢で延長）、大学勤務だった頃、日サロに通っていたので（涙）「若見え」は諦めました (図 1)。

図1：筆者近影（ほんの少し「加齢処理」しています）

■ AGE 値の増減

AGE 値の増減は「沈着先のターンオーバー」に左右されます。A1c は比較的短期間（ターンオーバー：2-3 ヶ月）ですので努力目標となり得ます。骨組織では 5-10 年なので、その AGE 指標は努力目標というよりは「もうダメです」あるいは「好きなように食べて、あとはお薬ね！」みたいな展開になるのかなと思います。

■ 教訓

「日焼けの影響…」により、子どもの AGE 測定は「企画倒れ」となりました。AGE による病態の評価にあたっては「標的臓器のターンオーバー」を考慮することが重要です。日サロは若気の至りでした（涙）

■ 筋拘縮と AGE

最近、当科では筋拘縮を「アスリート型」「生活習慣病型 (図 2)」の 2 種類に分類、さらに拘縮の程度により 4 型に分類し（図 3）、より効果的な治療手技を模索しています。注目すべきは、子ども達の拘縮様式として圧倒的に「生活習慣病型（85%）」が多いことです。タイプ 1 の拘縮は可逆的で、種々のセルフケアや食事の修正が有効です。一方、対応が困難とされてきたタイプ 2 に対しては「強刺激マッサージ」を含めた手法を新たに交えながら精力的に取り組んでまいります。

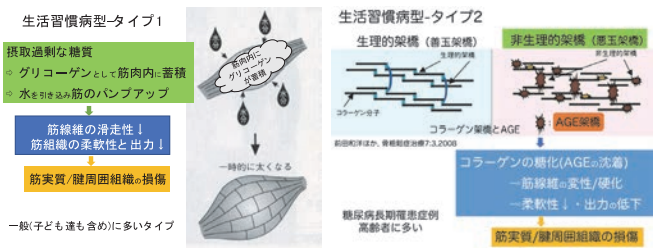


図2：生活習慣病における筋拘縮の病態

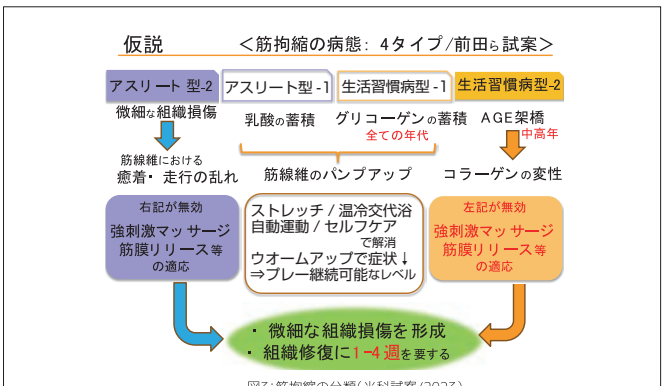


図3：筋拘縮の分類（当科試案/2023）

薬剤部

◇ 薬剤部紹介

薬剤部は、薬剤師 19 名・事務職員 3 名の 22 名のスタッフで、患者さんに安全で適正な薬物療法を提供することを使命に、業務を行っています。医師や看護師等と連携をとりながら薬剤師の専門性を活かし、安心・安全で高度な薬物療法の実践を目指しています。

チーム医療への参画

■ 新型コロナ感染症に対する調剤および情報提供

新型コロナウイルス感染症拠点病院として、早急に治療薬を確保し、相互作用が問題となる治療薬には、処方前に薬剤師が介入し処方可否の判断や腎機能に応じた処方支援を行っています。

■ 病棟薬剤業務

各病棟に薬剤師を配置し、患者さんへの服薬指導や医師・看護師への医薬品情報提供および相談応需を行っています。また、個々の患者さんに応じた処方の薬学的チェック・処方提案・抗生物質の投与設計なども実施しています。さらに退院時には、薬の説明とともに入院中のアレルギーや副作用の有無をお薬手帳に記載し、地域医療機関への確実な情報提供に努めています。

■ 持参薬

患者さんの持参薬についてお薬手帳や、患者さんからの聞き取りを合わせた正確な鑑別内容を電子カルテに記載し、院内スタッフで情報共有しています。入院時も適正な服薬を継続するため、受診・入院される際のお薬手帳の持参について、引き続き患者さんへのご説明をよろしくお願いいたします。

地域保険薬局との連携

●外来がん化学療法の質向上

病院ホームページ「がんへの取組み」内に抗がん剤レジメンを公開し、情報共有を図るとともに、地域の薬局薬剤師の方を対象とした薬薬連携研修会を開催しています。
令和 4 年度の研修では、薬局薬剤師からも講義をいただき、トレーシングレポートの課題等を情報共有しました。
治療内容や副作用情報を、「かかりつけ薬局」と共有することで、患者さんへの一貫した指導に努め、薬局から次回診察までの患者さんの状況を当院に提供していただくことで、当院と薬局が連携しながら、患者さんの化学療法の質の向上に取り組んでいます。

●疑義照会プロトコル

外来診療、保険薬局での調剤等を円滑に行うため、近隣病院共通の「院外処方箋における疑義照会プロトコル」を実施しています。「疑義照会の不要例」は、個別の処方医への同意の確認は不要で事後報告としています。詳細な運用につきましては、病院ホームページ「薬剤部：院外処方について」をご確認ください。

■専門・認定薬剤師（在籍）

- 抗菌化学療法認定薬剤師
- 救急認定薬剤師
- 外来がん治療認定薬剤師
- NST専門療法士
- 日本糖尿病療養指導士
- 認定実務実習指導薬剤師
- 病院薬学認定薬剤師
- 日本DMAT隊員

進化する褥瘡対策

褥瘡対策委員会

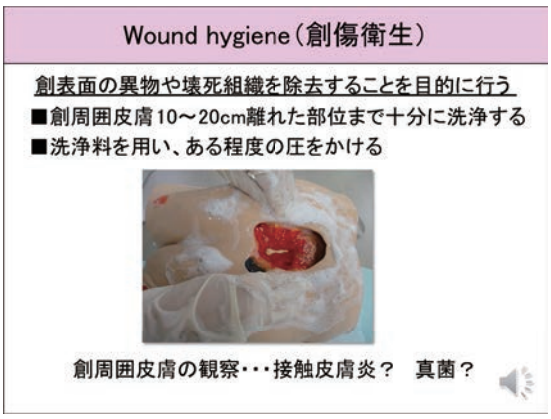
令和４年度の診療報酬改定にあたり、褥瘡対策に関する内容も変更されました。これを踏まえた当院の褥瘡対策活動の一部と今後の展望をお伝えします。

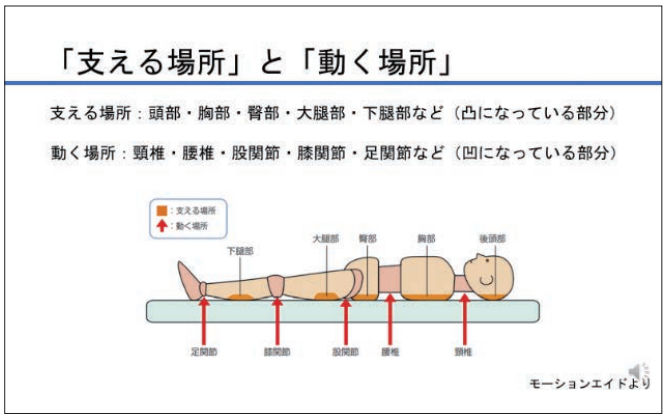
●多職種連携

褥瘡の予防と管理を行うために、褥瘡危険因子評価を踏まえた「褥瘡対策に関する診療計画書」を、専任医師・専任看護師が作成する必要があります。これに、令和４年度の診療報酬改定では「薬学的管理・栄養管理」の項目が追記されました。当院では、従来から褥瘡対策委員会のメンバーであった薬剤師・管理栄養士と、運用方法を検討し、褥瘡対策に関する診療計画書を共に作成しています。多職種で褥瘡の状態やケア方法を確認し、共通した認識の元、計画立案・実践に活かせられることは有意義なことです。より良いケアに向けてまだまだ課題はありますが、多職種連携の強化に向けて取り組んでいます。

●地域の皆さまとの“つながり”を大事に

コロナ禍以前は毎年開催していた「東播磨皮膚・創傷ケア研究会」ですが、諸般の事情により開催を見合わせています。ただ、地域の方々とのつながりを大事にしたいという思いの強さは年々増しています。そこで、昨年度より、理学療法士や皮膚・排泄ケア認定看護師が作成した、創傷・褥瘡ケアに関する動画を配信しています。ご視聴頂いた方々より「勉強になった」「患者さんへの指導に活かせる内容だった」と大変嬉しい言葉を頂いています。動画の最後には、ご質問をお受けするメールアドレスも掲載しています。是非ご視聴頂ければと思います。皆さまとの「つながり」を大事に、褥瘡対策を進めていきます。





「2025年問題」。遠い未来のように感じていたその年が、すぐそこまで近づいています。介護を必要とされる方々が、住み慣れた場所で、その方らしい生活を送られるような支援が必要です。中でも、褥瘡対策は必須であり、職種・職場を超えた、広範囲な連携が必要となります。地域で活躍されている皆さまと、より強固な関係を築いていきたいと思っています。今後ともどうか、よろしくお願いします。

専門看護師・認定看護師の活動紹介

当院には２分野３名の専門看護師･9 分野 11 名の認定看護師が在籍しています(2023 年２月現在)。2021 年、2022 年に認定を受けた専門・認定看護師の活動をご紹介いたします。

専門看護師からのメッセージ

慢性疾患看護専門看護師　三船恵里

慢性疾患看護専門看護師は、慢性疾患を抱える患者さんやご家族に、入院中や外来、地域での関わりを通して効果的なケアを提供し、自己管理や在宅療養をサポートする役割を担っています。また、看護スタッフの育成や研究活動にも取り組んでいます。

糖尿病をはじめとする慢性疾患を抱える患者さんは、生涯にわたって治療や療養を継続していくことが求められますが、それには多くの困難を伴います。患者さんが療養生活の中で抱える様々な苦悩や思いに寄り添い、患者さんやご家族が納得して治療や療養を選択することができるように、病棟スタッフや多職種と連携しながら支援を行っています。

認定看護師からのメッセージ

緩和ケア認定看護師　作間賀子

このたび緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。現在は、緩和ケア病棟に所属し、患者さんやそのご家族に対して、体や心などの苦痛を少しでも緩和し、より良い日常生活が過ごせるようにスタッフと共に看護実践を行っています。その人らしさを大切に「最期まで自分らしく生きる」を支えていくことを大切にしています。

当院は急性期病院でありながら同施設内に緩和ケア病棟を有し、急性期から終末期まで継続して支援できる環境があります。地域の拠点病院として、病院全体の緩和ケアの質が向上できるような働きかけを行っていきたいと考えています。

認知症看護認定看護師　中村暁恵

認知症看護認定看護師は専門的な知識を用いながら、現場で働く看護師の支援を行い、認知症ケアの質の向上と病院内のケア体制作りなどの役割を担っています。看護部認知症ケアWGメンバーと一緒に認知症ケアラウンドを週１回実施しています。新型コロナ感染症対策のため面会制限などの入院生活に制限がある中、認知症の方が、その人らしく入院生活が送れるように病棟看護師と話し合い、看護を実践しています。

認知症の方が安心して入院・退院ができるよう地域の医療・介護機関とさらなる連携を推進して参りたく、ご支援、ご協力をお願いします。

看護部認知症ケアワーキングメンバー

県立加古川医療センター外来診療表

令和５年２月１日（水）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		石田	大北	藤田		中村
消化器内科	１診		垰本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	田村	【尹(ゆん)】(再診のみ)	垰本(さかもと)
	２診		廣畑	岡田	廣畑(午前)	廣畑	吉治(午前)籠重(午後)
	３診			渡部		担当医	岡田
循環器内科	１診		福田	担当医(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	２診		【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科			木村	木村	木村		末廣
糖尿病・内分泌内科	１診		飯田	藤田	飯田	石田	樫谷
	２診			【後藤】	齋藤(午前)藤井(午後)		稲山(午前)津本(午後)
緩和ケア内科	入棟面談		担当医		担当医		担当医
	サポーティブケア外来(緩和ケア外来)		田中		田中		田中
生活習慣病			【尹(ゆん)】肝炎	【戎谷(えびすたに)】糖尿病・肥満	【合田】糖尿病・肥満	【石井】糖尿病・肥満	
			【福田】禁煙	装具外来			
リウマチ科	１診		田中	田中	田中	田中	担当医1
	２診		村田	塩澤	塩澤	村田	担当医2
	３診		西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	４診		中川	【上藤】	村田		中川
	５診		天野	西田			天野
腎臓内科	１診	午後		加藤		加藤(1, 3, 5週)	
外科・消化器外科	１診		高瀬	川嶋	小林	担当医	髙瀬
	２診		多田羅(たたら)	谷川	門馬(もんま)		宮永
心臓血管外科				担当医			担当医(午後)
脳神経外科	１診		担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	２診			梶本	荒井		梶本
乳腺外科	１診		石川	石川		石川	担当医
	２診		小林	加藤		小林	
整形外科	初診１診		青木	上藤	高山	西原	中川
	初診２診		高原		北山	神村	
	再診１診		【上藤】	中川	原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】				
形成外科	１診		櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	２診		谷口		谷口	谷口	谷口
	３診		【渡部】		【渡部】	【渡部】	【渡部】
皮膚科	初診／予診		【永濱】	【熊谷】	【高井】	【山田】	【永濱】
	１診		山田	足立	足立	増田	足立
	２診		熊谷	永濱	増田	熊谷	山田
眼科	１診		薄木	薄木	石川	薄木	薄木
	２診		徳川	徳川	徳川	石川	石川
	３診		秋田		秋田	秋田	
泌尿器科	１診		丸山	佐藤	田中	丸山	田中
	２診			大場			大場
放射線科	(IVR)		担当医		担当医		担当医
	(治療)		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間　平日 9：00 ～ 18：30　土曜日 9：00 ～ 11：30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。

※【　】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。